

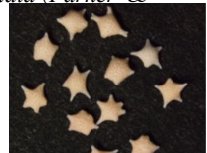
トカラ列島の話 その3

前号で記した諏訪之瀬島の浅い海底には、大型の底生有孔虫が堆積していました。有孔虫とは、その名の通り石灰質の体(外殻)に穴(孔)を持っているアメーバーと同じ仲間の原生動物です。外殻の形は、アンモナイトのようなものから円盤状、星形、ボール状など様々で、大きさは 0.1 mm～1 mm 程度です。

海底に棲息しているものは底生有孔虫と呼ばれ、プランクトンのように波に浮かんでいるものを浮遊性有孔虫と言います。有孔虫にはたくさんの種類があり、現在生きているもので約 4,600 種あることが知られています。沖縄ではお土産として小さな瓶に入れて売られている「星砂」は、有孔虫の一種で学名は *Baculogypsina sphaerulata* (Parker & Jones, 1860) と言います。沖縄にしか棲息していないような言われ方をしていますが、実は南西諸島の多くの島々に分布しています。また、この他にも星砂に良く似た通称「太陽の砂」*Calcarina* sp. と言われるもの、丸い円盤状の「ゼニイシ」*Marginopora* Quoy & Gaimard in Blainville, 1830 などが多くの種類があります。

私たちが調査した 1970 年代当時、日本における底生有孔虫についての学術的な調査報告は少なく、試料採集の方法さえ十分に定まってませんでした。ともかく、学友と二人で赤白の測量用ポールを手にサンゴ礁でできた海に入って、波に流されながらも位置を確認しながら潮間帯における有孔虫の採取をしました。今からすれば、ほぼ素人技でお恥ずかしい限りですが、先生に指示されるままにたくさんのサンプルを集めました。大学に戻ってからは、熱心な学友は創設されたばかりの理学部地質学教室に通って分析方法を教わり、二人で何とか学術レポートを書き上げ、学会誌に投稿しました*。私と違って「星砂」に打ち込んだ勉強熱心な学友は、その後も研究を継続し、これを研究テーマに実に 200 ページにもなる卒業論文にまとめ上げました。

ていせいゆうこうちゅう



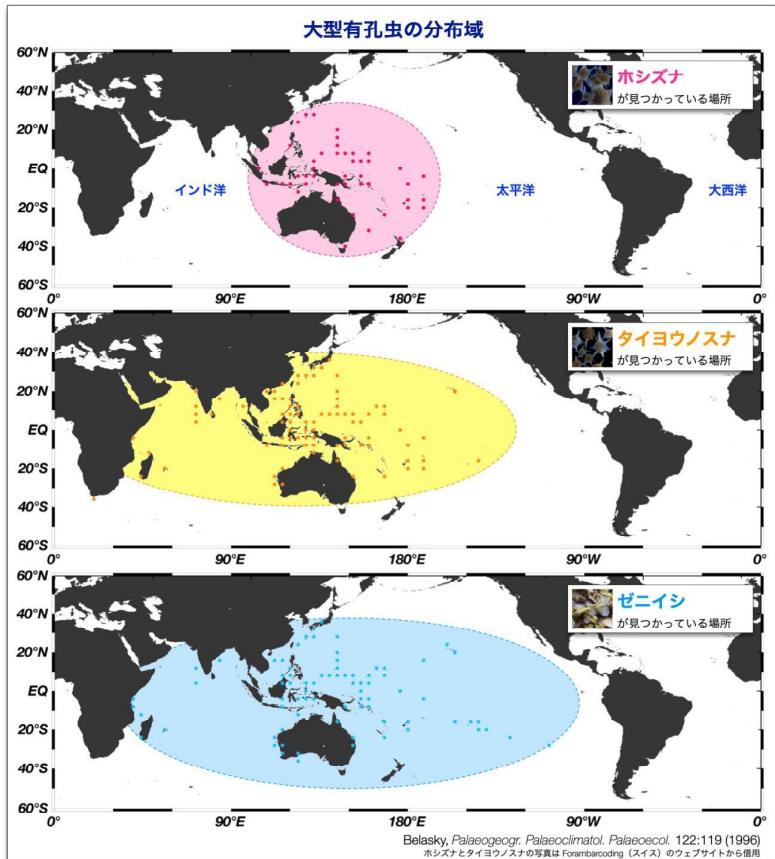
ホシズナ



タイヨウノスナ



ゼニイシ



ホシズナをもっと知ろう

DATA:東京大学情報基盤センター <https://co.aori.u-tokyo.ac.jp/sc/opencampus2>

参考資料

- *石飛 一吉・福島 宏明(1973) 諏訪之瀬島における海浜堆積物「鹿児島地理学会紀要」23. pp.20-24.
- *福島 宏明(2017)『立ち上がる 吾も吹けよ 春の風 ～広秋・15 日間の闘病記～』私家本, 104 頁.の中で、私と有孔虫のことを記している(pp.32-38.)。
- *斎藤毅・塚田公彦・山内秀夫編著(1980)『トカラ列島 ～その自然と文化』古今書院, 351 頁。
- *Lee, J. J., Godron F. Leedale and Phyllis Bradbury (eds.) 2000. *The Illustrated Guide to the Protozoa*. 2nd edition. Society of Protozoologists. 4200 illus, 1432 pp.